

事業実施報告

開催日	令和6年12月8日(日)		
事業名	おいでよ!岩手山曲り家ワークショップ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	午前:9家族27名(大人12名、子ども15名) 午後:8家族20名(大人9名、子ども11名)
対象	小学校3年生~6年生の児童を含む親子		
講師	こども広場マグノリア代表 絵本専門士 牧野 幹氏 Earth Building Iwate 磯和 亮治氏		
協力	東北工業大学工学部環境応用化学科 山田研究室 北上川サポート協会 工房寿限無		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

- 午前、午後の2回実施。総勢47名参加。キャンセルは5組10名。
- ・お宝ラリー(展示物発見ゲーム)
 - ・自然素材の創作品や民具、農具の展示、いろり・火鉢・かまど・薪ストーブの活用
 - ・お話会(絵本専門士による郷土の昔話や茅葺きの家を題材にした絵本の読み聞かせ)
 - ・茅を取りまく環境の話、茅葺き職人の工具を使ったデモンストレーション、茅ブリケットを焚く体験
 - ・茅の穂先を使った「茅あかり」の創作活動
 - ・かまどで炊いた混ぜご飯とせんべい汁の実食

〔成果〕

- ・事業全体に関する満足度は肯定的回答が100%だった。「自然の息吹を感じる」ために、自然物の創作品や玩具、郷土の民具や農具を展示した。「伝統文化についての理解を深める」ために、絵本専門士による曲り家での読み聞かせ、いろりや火鉢に炭をおこし、昔の生活に思いをはせる体験を行った。続いて「持続可能な社会の在り方について学ぶ機会をもつ」ために茅を取りまく環境のワークショップを実施し、茅がどのような場所で成長し、どのような利点があるかを茅職人から話を聞き、さらに茅の穂先を利用した「茅あかり」を家族で作り、茅を身近に感じられるような工夫をした。
- ・子どもたちからは、「昔の人になった気持ちで本のお話を聞きました。」「お父さんと一緒に茅あかりを作るのが楽しかった。」等の感想を聞くことができた。保護者からは「昔の生活に触れることで今に活かせることがあるか、考えるきっかけになりました。」などの感想があり、持続可能な社会の在り方を学ぶきっかけになった。

〔課題〕

- ・伝統文化についての理解を深めたり、先人の生活に思いをはせることはできたが、子どもたちには「持続可能な社会の在り方」の理解は難しい様子だった。SDGsの目標と紐づけ、曲り家、茅、薪、木の実、自然にある様々なものを分けあい、循環していく仕組みがこの地方にはあり、それが現代でも見直されていることを、子どもたちに示せたら良かった。
- ・12月8日の天候は雪で、曲り家内で石油ストーブや火鉢や薪ストーブをつけたが、気温が上がらず終始寒い状態だった。いろりに人が集まるという利点はあったが、活動を行うにはもっと早い時期が好ましい。もしくは、曲り家に防風対策を施す必要がある。



絵本専門士による昔話の読み聞かせ



自然素材「イタドリ笛」



1年で3mの長さに成長する茅



茅の先端を使用した「茅あかり」作り



少ない薪で効率よく炊けるかまど



完成した茅あかりをみながら
せんべい汁の実食